

デジタル図書開発担当者の想い

見えない子も、読めない子も、自分のペースで「読む」ことをあきらめなくていい。
そんな世界をつくりたい—それが出発点でした。
技術も資金も足りず、何度も立ち止まりました。
それでも「この本を待っている子がいる」と信じて、
三歩進んで二歩下がるように進めてきました。
ようやくカンボジアやラオスで試作を始めます。
はじめて自分の力で物語を読む子どもたちの目が輝く、
その瞬間を想像すると、胸が熱くなります。



海外事業担当
ミン

歳末募金でいただいたご支援は、
以下の活動のために大切に使わせていただきます。

- ・能登半島地震の被災地でのブックカフェの開催
- ・カンボジアとラオスにおける
障害がある子どもたちへの図書館事業



すべての子どもたちが
可能性と創造性を發揮し、
「自分ものがたり」を描ける社会に。

エファジャパン歳末募金 2025

2026年1月31日（日）まで

クレジットカード

以下のQRコード、もしくは検索いただくと、歳末募金のページへアクセス、簡単にご寄付いただけます。スマートフォンからのご支援も可能です。



エファ 私たちにできること

寄付をする>今回の寄付をお選びください

郵便振替

00190-6-723415 加入者名)エファジャパン

※寄付金受領書を発行します。

払込取扱票通信欄に「歳末募金」とご記入ください。



銀行振込

- 中央労働金庫(2963) 市谷支店(299)
普)1442725 トクヒ)エファジャパン
- 三菱UFJ銀行(0005) 市ヶ谷支店(014)
普)1340692 トクヒ)エファジャパン

※寄付金受領書を発行します。

お振込み後、事務局までメールか電話でご連絡ください。

〒102-0074

東京都千代田区九段南3-2-2 九段宝生ビル3階

認定NPO法人 エファジャパン

TEL 03-3263-0337 Email info@efa-japan.org

これが僕の世界

本を読むことを
あきらめないといけないの？



エファジャパンはカンボジアとラオスで
障害がある子どもたちへの教育支援を行っています。

目が見えない、ポリオで足が不自由、授業に集中できない…

さまざまな障害がある子どもたち向けに、
デジタルを活用した図書を開発しています。

音声に文字や画像を同期させ、PCやタブレットで読書ができる
国際標準規格のデジタル図書です。

こちらのQRコードから読むことができます。



内戦で 国民の25%が 命を落とした カンボジアで。 世界一の 不発弾汚染国と呼ばれる ラオスで。

開発途上国に暮らす障害者が利用可能な書籍は、毎年出版される本の1%以下と推定されます。

戦争による教育格差が今も残るカンボジアやラオスでも、障害者の方が読める本は限られています。

障害がある子どもやその家族は、"障害があっても自分たち子どもには権利がある"ということ、健康を害した時の対処方法、生活を守るための法律などを知りません。

障害者が利用可能な書籍は1%以下



障害とともに、生きるということ

カンボジアやラオスの農村では、障害のある子どもが今も家の中で育つことが少なくありません。

「外に出ても何もできない」と周囲に言われ、学校へ行く道を断られた子もいます。

ぬかるんだ土道、段差のある教室、読むことを前提にした教材。それらすべてが、彼らにとって“壁”です。

ある母親は、手のひらで息子の顔を撫でながらつぶやきました。

「この子にも、未来を見せてやりたい。」

学ぶこと、外の世界を知ることが当たり前ではない。それが、彼らの現実なのです。



エファジャパンのデジタル図書開発

音声・文字・画像を組み合わせてつくる「マルチメディアDAISY」を使ってデジタル図書を開発しています。

パソコンで文と声を重ね、絵を添えると、ページが息づくように動き出します。タブレットでは合成音声が語り、文字が光で子どもたちの視線を導き、速度や色も思いのままです。

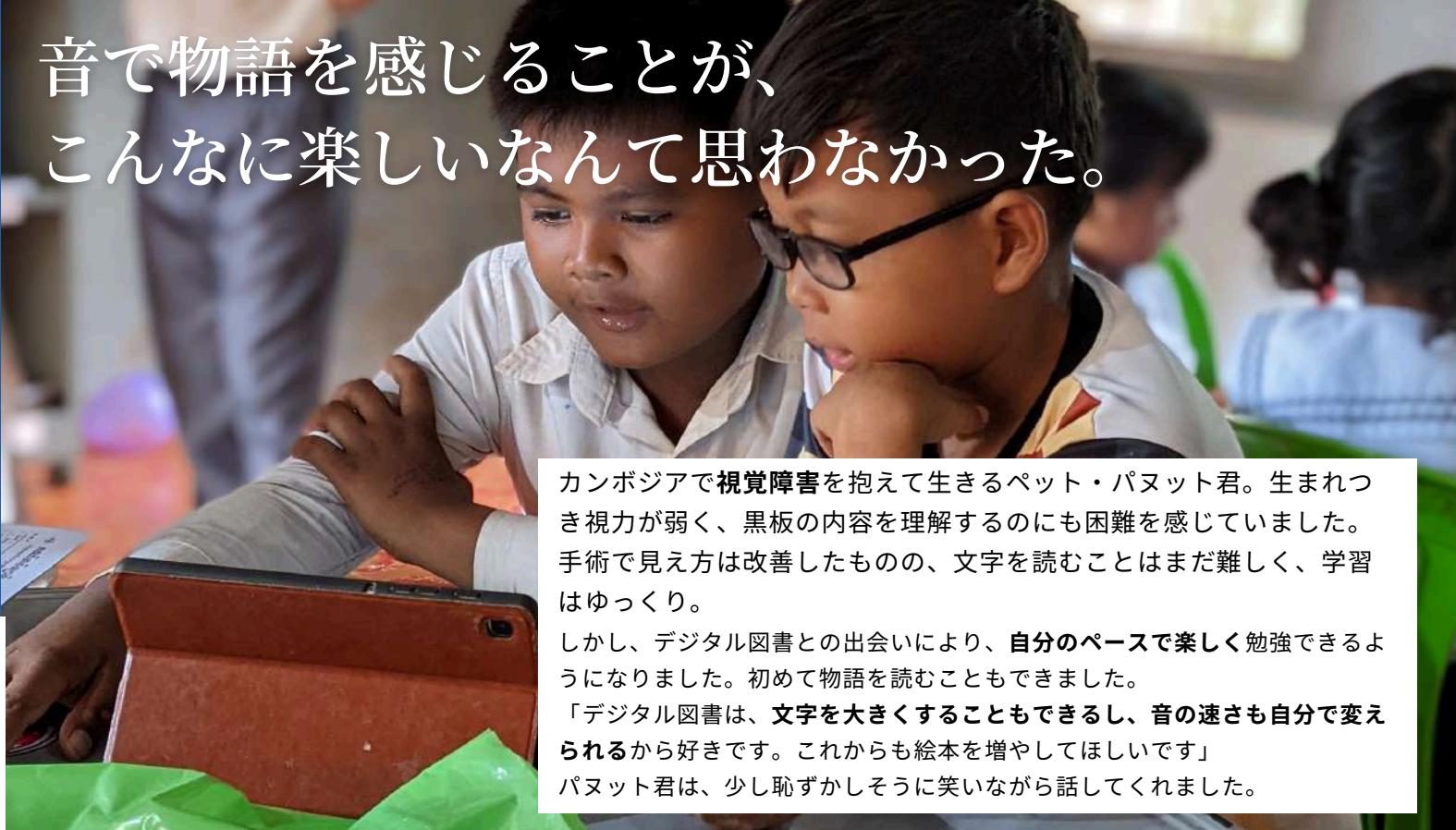
2022年、「読みに困難を抱える子どもにも 読書の体験を届けたい」という想いから、スタッフが日本障害者リハビリテーション協会の研修に参加したのが最初の一歩でした。

国際的なアクセシビリティ団体など多くの方から指導いただき、2023年には試作を使った教育実験がスタート。

2025年10月、いよいよカンボジア・ラオスで実機デモンストレーションを実施。現地の行政・図書館・教員・保護者らと連携し、現地の子どもたちに初めての“音と文字で読む本”的体験を届けました。



音で物語を感じることが、こんなに楽しいなんて思わなかつた。



カンボジアで視覚障害を抱えて生きるペット・パヌット君。生まれつき視力が弱く、黒板の内容を理解するのにも困難を感じていました。手術で見え方は改善したものの、文字を読むことはまだ難しく、学習はゆっくり。

しかし、デジタル図書との出会いにより、自分のペースで楽しく勉強できるようになりました。初めて物語を読むこともできました。

「デジタル図書は、文字を大きくすることもできるし、音の速さも自分で変えられるから好きです。これからも絵本を増やしてほしいです」

パヌット君は、少し恥ずかしそうに笑いながら話してくれました。

子どもたちの笑顔は、みんな同じ。 違うのは、笑顔になるまでの道のりだけ。



ラオスの小学校で図書室活動を運営している図書館員、ノイナリンさん。粘土遊びや絵を描く時間、読み聞かせ、工作、そしてオンライン絵本の上映など、子どもたちが笑顔で過ごせる活動を行っています。

エファとの協働を始めるまで、障害のある子どもたちと関わる機会はほとんどありませんでした。しかし、エファが提供するインクルーシブ教育研修を受け、一人ひとりの子どもに合った関わり方を学びました。デジタル図書の導入により、子どもたちの選択肢も広がると期待しています。

学びの場が、すべての子どもに開かれるように。ノイナリーサンは今日も、温かいまなざしで子どもたちと向き合っています。

本を届け、希望を届ける

エファジャパンは、2004年の設立以来カンボジアやラオスで教育福祉支援を行ってきました。

現在は、障害者が「学びをあきらめない」ため、放課後学習教室やモデル図書室の整備、紙に加えデジタル図書の開発と提供、人材育成のための活動にも力を注いでいます。

2024年1月以降は、能登半島地震被災地で、現地調査や本を届ける活動を行っています。



見えにくい子も、読むのが苦手な子も、自分のペースで物語を旅できる。誰もが作れて、誰もが使える。お金がかからず、特別な機器もいらない、希望の図書を届けていきます。